
誤射による心労

麻美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誤射による心労

【Nコード】

N3885P

【作者名】

麻美

【あらすじ】

オリ主とカノン・アリサ・ヒバリによって繰り広げられるほのぼの短編小説。攻略ネタあり。

飽く迄短編ですので、本格的に読みたいなと思った方は感想までお越しを。

（前書き）

気分で書きました。

本格的に書くか、それともこれで終わらせるかは寄せられる感想次第。

「えっと……今回のミッションは荷電性ボルグ・カムランの討伐か……。んで、一緒に任務に行くのはアリサと……げっ！ カノンも！？」

マジか……。

カノンとだけは一緒にミッションしたくないんだよな。

だって討伐の時はいつもの優しくておらしいカノンが豹変して鬼みたいな性格になるんだもんな。

誤射した時には『射線上に入るなって私言わなかったけ？』ってキレるんだぜ？

極めつけは討伐終わった後に『私今日誤射が少なかった気がします』

『って満面の笑みで言ってくるんだよ。』

いやいや、お前の誤射は今日も絶好調に二桁いつてたよ？ とは口が裂けても言えない。

それはここ、アナグラでの暗黙の了解だからな。

でも悪いことばかりではない。っていうか悪いことばかりだったら誰も一緒にミッションをやるうとしないから。

良いことは1つしかないが、それが結構大事だったりする。いや、結構どころではなく、良い武器を作りたいなら彼女を連れていくべきだ。

何せカノンを連れていった時に限ってレアなアイテムが手に入るし、それとそれ以外の理由でカノンを連れていく奴もいたな。

確かブレンダンあたりか。『ミッション中のあいつは最高だ！』なんてマゾ発言をしていたっけ。

何処が良いんだよ。ただ恐いだけじゃん。あの性格を好きになれるお前がすごいよ。

「あの……タイガさん？カノンさんが……」

「うう……やっぱりタイガくんは私なんかと行きたくないんだ……！」

……やらかしたあ！？カノンいたのかよ！？
っていうかヒバリ、それを何故早く言わなかった……。

「ちよつと……カノン？」

「いいんです！いいんです！私今日について行きませんか！タイガくんはアリサさんと2人が良いんですよね！」

やつべえ……マジでやらかしたパターンだ。
そんな隅っこで蹲られて、こんなところ他の誰かに見られてもしたら……。

「あれ？どうしたんですか、タイガさん？そんな困った顔して」

ねっ 人生って思い通りに行かない事ばっかだよ。

アリサ……何故今来た。今日に限って遅刻とかしてくれよ。いつも真面目すぎるんだよ。

「アリサ……。いや……カノンが……」

「カノンさんがどうかし たんですね。なにしたんですか？」

「タイガさんがカノンさんを傷付ける様な発言をして……。タイガさんも悪気があったんじゃないでしょうけど、少し配慮が足りなかったかもしれません」

その通りだよ。将にその通りだよ。

だけどさ……。俺だって偶には愚痴の一つくらい零すって。人間だもの。

だからアリサも俺を蛞蝓を見る様な目で見るな。

いつもみたいに尊敬の眼差しで見てくれ、頼むから。

「早く謝った方がいいんじゃないですか？こうしている内にもアラガミが進行してきていますよ？」

確かにアリサの言う通りだな。

今回は珍しく防衛のミッションだし、早く行くべきか。

「カノン、ごめん。ホントは俺にはお前の大火力のブラストが必要なんだ。ミッションの時に気が強くて頼りになるから、お前に背中を預けられる。でも……。ホントはお前にミッションなんかに出て欲しくないんだ。俺はアナグラに帰った時に笑顔でカノンがクッキーを持っていてくれるのが一番嬉しいんだ。俺はカノンに傷付いて欲しくない。だから一緒にミッションに出たくないんだ」

「……………本当ですか…………？」

「ああ」

そんな哀しそうな目で俺を見るなって。
こっちまで泣きたくなるだろうが。

「それなら、私……今日も頑張って撃ちまくります！」

……あれ？俺の話の流れからだとは今日はミッションにでない流れだっただろ？

それがなんで逆に自信をつけてるんだ？

謎だ……。

「タイガさんも上手く口が回りますね」

「は？上手く回るって……本心だからそんなもんだろ。実際カノンに危険な思いはさせたくないしな。それはお前も同じだぞ、アリサ」

「そ、そうですね……！！は、早く行きましょう……！！」

アリサのヤツ、そんなに顔紅くする様な事か？

そんなの仲間だったら、友達だったら、好きなヤツだったら当然のことだろ。

それに個体レベルが高いからって荷電カムラン程度俺一人でなんとかるしな。

カムラン種って腹の下入れば攻撃喰らわないし。

「だな。カノン、お前もいつまでも興奮してないで行くぞ」

「あっ！待ってくださいー！！」

そんなに慌てなくて待つから、あんまりはしゃぐな。

「今日も無事帰って来てくださいね？」

ヒバリも心配するな。

俺がこれくらいの任務でミスしないことくらいお前もわかってるだろ。

ま、油断はしないけどな。

「さあて！今日も抗うか！荒神様とやらに！」

（後書き）

こんな感じの小説ですが、これをしっかりとした長編で読みたい方は感想までお越しを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3885p/>

誤射による心労

2010年12月9日03時03分発行